

しょうがっこうをおくる会 様



オーダーメイド・プロジェクト
東ティモールにおける教室建設プロジェクト
【完了報告書】

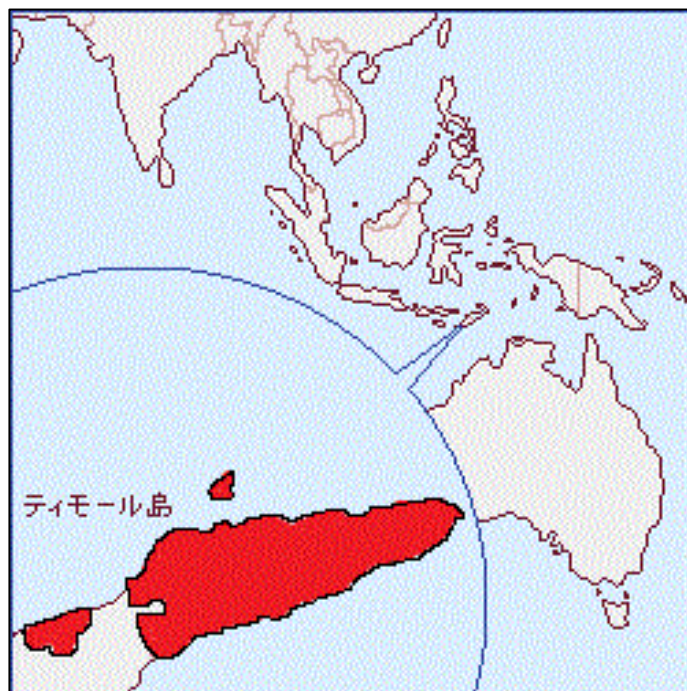


東ティモールの女の子

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
2024年9月18日

■実施地域

本プロジェクトは、東ティモール南西部、アイレウ県ファツボサ村で実施いたしました。



【出典】「外務省」



アイレウ県

【プラン・インターナショナルの東ティモールでの活動】

- 2001年より活動を開始。
- 現在は首都ディリにある国統括事務所と2つの現地事務所を拠点として住民参加型開発活動に取り組む

■ 背景

【国】

東ティモールの人口は130万人ほどで、その約半分が18歳未満。2006年まで紛争が絶えなかったため、国民の41%がいまだに貧困ライン以下の生活（1日1人1.9米ドル未満）を送っている。また、教育や保健サービスへのアクセスは農村部と都市部との格差が激しい。

【実施地域／アイレウ県ファツボサ村】

- ・ ファツボサ村は、都市部から遠く離れた地域に位置し、基本的な社会サービスやインフラへのアクセスが難しい。
- ・ 同村には268世帯、1,602人が暮らしている。
- ・ 住民の主な収入源は農業で、豆、サツマイモ、にんにく、野菜等を栽培している。
- ・ 強風など自然災害の多発地帯にある。

【対象校】

- ・ 支援対象となるEBFカイカサ小学校はファツボサ中央小学校の分校であり、中央小学校から約17kmの距離にある。
- ・ カイカサ地区および近隣地区の子どもたちが通学している同分校では現在1年生から4年生まで計80人の児童が学んでいる。教師は5人。
- ・ 分校の教室は地元の資材で簡易に建てられた間に合わせのもので、状態が非常に悪い。教室の壁、床、天井は老朽化が進んでおり、破損が激しい。
- ・ 自然災害の発生時に現在の教室は児童・教師にとって安全な状態ではない。
- ・ 児童数に対してスペースが不足、教室備品や教材も不十分。
- ・ ジェンダー平等と包摂※、暴力の弊害について学ぶ機会が不足している。

※包摂: 誰も排除されず、全員が社会に参画する機会を持つこと

課題1. 現在、児童は安全性に懸念があり、スペースも十分でない教室で学んでいる
年間を通じて台風等の自然災害の多い地域のため建物の損壊リスクが大きい。

課題2. 教室備品や教材等も不足している。

課題3. 地域に、ジェンダー平等と包摂、暴力の弊害についての理解が不足している。



子どもたちが安心して学べる教育環境が必要

■プロジェクト概要

項目	内 容
目標	アイレウ県ファツボサ村カイカサ地区の小学校分校において2教室を建設し、ジェンダー平等、包摂的で暴力のない環境について意識啓発を行うことで、子どもたちが安全に学べる学校づくりを目指す。
実施期間	約1年間(2023年7月～2024年6月)
対象者*	対象校に通う生徒101人(女の子47人、男の子54人)および 教員5人(うち女性2人) 地域住民326人
活動内容	1. 3教室の建設 2. 教室備品および教材の支給 3. ジェンダー平等と包摂、暴力の弊害に関する意識啓発活動

* 提案書記載の対象者人数を以下のとおり変更
対象校に通う生徒 80人(女の子34人、男の子46人)から101人(女の子47人、男の子54人)へ、
教師5人(うち女性1人)から(うち女性2人)へ、

■ 経過

プロジェクトは2023年7月に開始し、豪雨により建設資材の調達等に影響はありましたが、2024年6月に無事完了しました。

教室の建設

2023年7月～8月

- コミュニティの人々に向けてプロジェクトの説明会を開催し、目的・概要を共有。
- 教育局職員、教師、コミュニティ・リーダーら30人（うち女性18人）から、現状についての聞き取り調査を実施。
- 関係者ミーティングを開催、参加した教育局職員、教師、生徒、コミュニティ・リーダーら関係者50人（うち女性18人）とともに、具体的な建設計画や、地元で調達できる資材、各自の役割分担等について話し合った。
- 建設開始にあたり、伝統的な儀式による起工式を開催



関係者ミーティングの様子



地域の伝統にのっとりた起工式の様子

2023年9月～12月

- 建設作業へのコミュニティの協力についてのミーティングを開催。計37人(うち女性14人が参加し、具体的な活動とスケジュール、作業分担について協議した。
- 建設資材のうち購入するもの(鋼材、木材、ブロック、セメント、砂利、ワイヤ、釘等)地域で調達できるもの(砂、石、レンガ等)を確定。建設地への資材運搬を開始。
- 建設地から石や瓦礫を取り除き、表面を均して整地を実施。
- 基礎部分を建設後、レンガやブロックを積み壁の建設を進める。
- 教育局の土木技師、教師、コミュニティ・リーダーによる進捗確認を定期的に実施。



建設地への建設資材の運搬



基礎部分の工事の様子



建設中の壁部分

2024年2月～5月

- 年末年始の休みで建設資材の運搬に遅れが生じたが、コミュニティの人々も労働力を提供し壁の建設が3月に完了。
- 屋根部分の工事を4月に、窓・ドア部分の工事を5月に完了。

2024年5月～6月

- 壁の塗装、床のセメント敷設、プレート設置、片付け等の仕上げ作業を実施。
- 3教室からなる教室棟が完成。
- 6月に学校への引渡式を開催。式典には教育省、地方自治体、コミュニティからの代表、プランの東ティモール事務所からの代表も出席した。



屋根部分の建設の様子



壁のしっくい塗装の様子



完成した教室棟(左:正面 右:裏側)

【記念プレート】 教室棟の壁面には、しょうがっこうをおくる会様の貴重なご支援に感謝して記念プレートが設置されました。



プレート訳: この小学校はしょうがっこうをおくる会様のご支援により、ファツボサ村とプラン・インターナショナルとの協力で建設されました 2024年6月30日



伝統文化に彩られた引渡式の様子
児童、教師、保護者をはじめ、教育省や地方自治体、コミュニティの代表、およびプラン関係者が出席し、ともに祝った

教室備品および教材 の支給

2024年4月～5月

- 教室備品：生徒用机・イス 90セット、教師用机・イス 6セット、黒板3台、教師用戸棚1台を支給。
- ノート、ペン、鉛筆、色鉛筆、消しゴム、定規等の文具を支給。
- サッカーボール、バレーボール、バトミントンセット、縄跳びロープ等のスポーツ用品を支給。
- 石けん、爪切り、タオル、バケツ、洗剤、モップ、ブラシ、ほうき等、衛生・清掃用品を支給。
- 、



机・イス、黒板など教室備品が備わった新しい教室

ジェンダー平等と
包摂、暴力の被害に
関する意識啓発活動

2023年10月～2024年4月

- 毎月2回、学校において、子どもから子どもへ指導する手法で、衛生、月経衛生管理、正しい手洗いを中心とした衛生推進活動を実施。児童たちは、特にコロナ禍において家庭でも正しい手洗いを実践するよう奨励された。児童101人(うち女の子47人)と教師5人が参加。参加した児童には衛生用品セットが支給された。



衛生、月経衛生管理、正しい手洗いについて楽しみながら学ぶ児童たち

2024年3月

- プラン職員が講師となって、ジェンダー平等と包摂、体罰のない教育指導、虐待や搾取から子どもを守るセーフガーディング、および給水・衛生設備の維持管理についてのトレーニングを実施。教師、PTA、コミュニティ・リーダーら計47人(うち女性26人)が参加した。



教師、PTA、コミュニティ・リーダーを対象にしたトレーニングの様子

■ 成果

成果1. 頑丈で十分な広さの教室が建設された。

成果2. 教室に教室備品と教材が備わった。

成果3. 意識啓発活動およびトレーニングを通じて、児童と教員、保護者らのジェンダー平等と包摂や暴力の弊害について理解が深まった。

以上により、対象校に通う子どもたちが、安全な学習環境のもとでより質の高い教育を受けられるようになる。



十分な広さの新しい教室で学ぶ子どもたち

■SDGs(持続可能な開発目標)への貢献

本プロジェクトの実現は、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)※の以下の目標に貢献します。

目標4「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」

- 学校に教室を建設し、教室備品や教材を支給した結果、子どもたちが快適に質の高い教育を受けられるようになる。
- 児童、教師、保護者らを対象にした意識啓発活動により、ジェンダー平等の実現が期待できる。

※SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連の全加盟国193ヶ国によって承認。2030年までに「誰も置き去りにせず世界から貧困を根絶する」こと、そして「地球を持続可能なものにする」ことを目指している。17の目標と169のターゲットから構成され、教育、保健・衛生、ジェンダー平等、雇用改善などとともに、気候変動、都市問題、生態系の保全、平和構築など、社会・経済・環境という3つの側面を含む包括的な内容となっている。プランはこのSDGsに呼応しながら活動を継続。

■ 現地の声

「私には弟が1人いて同じ小学校に通っています。私は生徒会のメンバーで、環境係りをします。環境に興味があるからです。学校に新しい教室に新しい机・イスが備わって、とてもよい環境になってとてもうれしいです。今では快適に授業を受けられます」

(カルメリータ、12歳、小学6年生、女の子)



「ぼくには7人兄弟がいます。ぼくを含めて3人がこの小学校に通っています。ぼくは生徒会の会長をしています。以前の教室は古くて頑丈ではない造りだったので、雨や強風のときは授業に集中することができませんでした。今では新しい教室で快適に安心して授業を受け続けられるのでとてもうれしいです。文具やスポーツ用品なども支給されて、学校生活が楽しくなりました」

(パトリシオ、12歳、小学6年生、男の子)



「私には3人子どもがいますが、うち2人がこの小学校に通っています。児童の母親を代表してご支援に御礼申し上げます。プロジェクトにより新しい教室が建設されて、子どもたちが安全に学べるようになったので安堵しています。おかげさまで、子どもたちは通学意欲が以前よりずっと増しました」

(アメリア・ヌメス 34歳、3人の子どもの母親)



「PTAの代表として、このプロジェクトの実現を可能にくださった日本と東ティモールの全ての方々に感謝しています。この学習環境を守っていく責任の一端はPTAの責任であり、私自身もしっかり担うつもりでおります」

（アントニオ・シルバ、50歳、PTA代表）



「私たちの地域におけるプランの長年の活動にとっても感謝しています。プランは特に基礎教育分野の支援に力を入れてくださってます。今回のような3教室の建設は大変ありがたいです。教育省とプランがうまく連携した本プロジェクトをご支援くださり、本当にありがとうございました」

（ベアトリス・トレザオ、地方自治体の教育局局長）



「ファツボサ村がプランの活動地域であり、本プロジェクトが実施されたことを大変うれしく思います。新たに教室が建設されたこと、またプロジェクトを通じて多くの学びを得たことに心より感謝しています」

（アルシノ・ティルマン、アイレウ県の学校担当職員）



東ティモールにおける 教室建設プロジェクトへの ご支援をありがとうございました



衛生用品セットを支給された子どもたち

■問い合わせ先
マーケティング・コミュニケーション部
寄付受付担当： 深瀬泰子
TEL: 080-7739-3430
Email: yasuko.fukase@plan-international.jp